

令和7年度

Excellent company TAIKEN award

いーたいけんアワード

青少年の体験活動推進企業表彰



企業の取組事例集





企業の中で青少年に 多様な体験活動の機会を

表彰の目的

社会貢献活動の一環として青少年の体験活動に関する優れた取組を行っている企業を表彰し、全国に広く紹介することにより、青少年の体験活動の推進を図ること。



表彰の対象

— 以下の条件を満たす取組を実施する企業 —

1. 主体

日本国内に拠点を有する企業（営利を目的として経済活動を継続して実施する法人格を有した組織）

2. 内容

- ① 上記（1）の企業が社会貢献活動の一環として実施した、青少年（おおむね18歳以下）を主な対象とする体験活動。
- ② 令和6年4月1日～令和7年3月31日までに実施されたもの。

表彰の内容

応募のあった63件（大企業部門：40件、中小企業部門：23件）の中から、下記のとおり受賞企業が選出されました。

文部科学大臣賞（最優秀賞）

2件（大企業部門：1件、中小企業部門：1件）

優秀賞

9件（大企業部門：7件、中小企業部門：2件）

特別賞（スペシャルニーズ賞）

1件

※特別な支援や配慮を要する青少年（障害・不登校・特異な才能・日本語指導等）のための取組や、特別な支援や配慮について理解を深めるための取組のうち顕著な取組。

特別賞（連携賞）

1件

※青少年教育団体等と企画段階から密に連携して行った取組のうち顕著な取組。

奨励賞

14件（大企業部門：8件、中小企業部門：6件）



目次

文部科学大臣賞

- 03 大和ハウス工業株式会社
みらいを創る力を育む大和ハウスの「コトワリエ社会共育プロジェクト」
- 05 株式会社 秋田魁新報社
秋田活性化中学生選手権

優秀賞

- 07 アマゾンジャパン合同会社
中高生のためのKindle電子書籍出版ワークショップ
- 08 セイコーグループ株式会社
時を学び未来をつくる～セイコー次世代育成活動「時育®（ときいく）」～
- 09 株式会社デンソー
デンソーサイエンススクール
- 10 パーソルホールディングス株式会社
小・中学校向けキャリア教育 講師派遣授業 “はたらく”を考えるワークショップ
- 11 三菱UFJモルガン・スタンレー証券株式会社
株式会社教育と探求社
探究型金融経済教育プログラム「お金の力」
- 12 明治安田生命保険相互会社
明治安田の金融・保険教育
- 13 NTT 東日本株式会社
ICC キッズ・プログラム 2024 「キミ（）、コード（）、セカイ（）」
- 14 アースサポート株式会社
ごみの分別とリサイクルを「見る・考える・体験する」子どもたちへの環境教育
- 15 株式会社 biima
biima sports ～「運動機会の減少」と「体験格差」を打破。社会を巻き込む「共創戦略」ですべての子どもに運動機会を～

特別賞

- 16 アンドナ（株式会社 andna）
出張ポッチャ～障がい者と子どもたちが共に楽しむ多様な体験～
- 17 武田薬品工業株式会社
「学びの畑」を通じた持続可能な理科教育環境の構築

奨励賞

- 18 アクセンチュア株式会社
STEAM Journey
～学びの連鎖で社会を変える～
- 18 味の素株式会社
すべての子どもたちに体験学習の機会を～味の素(株)の出前授業・社会科見学～
- 18 塩野義製薬株式会社
多様な学びプログラム
- 19 積水メディカル株式会社
積水メディカル理科教室
- 19 損害保険ジャパン株式会社
防災ジャパンプロジェクト
- 19 株式会社パソナグループ
パソナグループ「オンライン遠征」
- 20 株式会社 日立システムズ
STEAM 教育プログラム
「未来をもっと輝かそう」
- 20 ライオン株式会社
おくちからだプロジェクト
- 20 株式会社 秋田魁新報社
「だから大丈夫～こどもを守るプロジェクト」
- 21 加山興業株式会社
教科書を飛び出した！
KAYAMAの体験型「環境授業」
- 21 株式会社 講談社
「本」とあそぼう 全国訪問おはなし隊
- 21 JRCS 株式会社
JRCS 海運教育
「もし日本から船が消えたらどうなるの？」
- 22 スプリング・ジャパン株式会社
芝山町インターナショナルジュニアアカデミー
～航空業界で活躍する人材の植樹～
- 22 ヤオキン商事株式会社（ほか11社）
地域連携型校内職場体験 おしごとらんど
- 23 広がる企業の体験活動
- 27 令和7年度 審査委員講評
- 30 これまでの文部科学大臣賞 受賞企業



↑ photo by Naoya Ochiai





大和ハウス工業株式会社 みらいを創る力を育む大和ハウスの 「コトクリエ社会共育 プロジェクト」

<https://www.daiwahouse.co.jp/kotokurie/>

事業概要 「まち×探究×居場所空間」の学びのサードプレイスとして、「やってみたい」気持ちや当社事業領域への関心が生まれ、社会の創り手を育てるような循環型共育プログラムをこどもたちへ提供する。

- 所在地** 大阪府 他全国
- 活動場所** みらい価値共創センター「コトクリエ」(奈良県奈良市)
- 対象者** 小学生・中学生・高校生
- 実施日程** 令和6年4月～令和7年3月
- 参加者** のべ1,286人

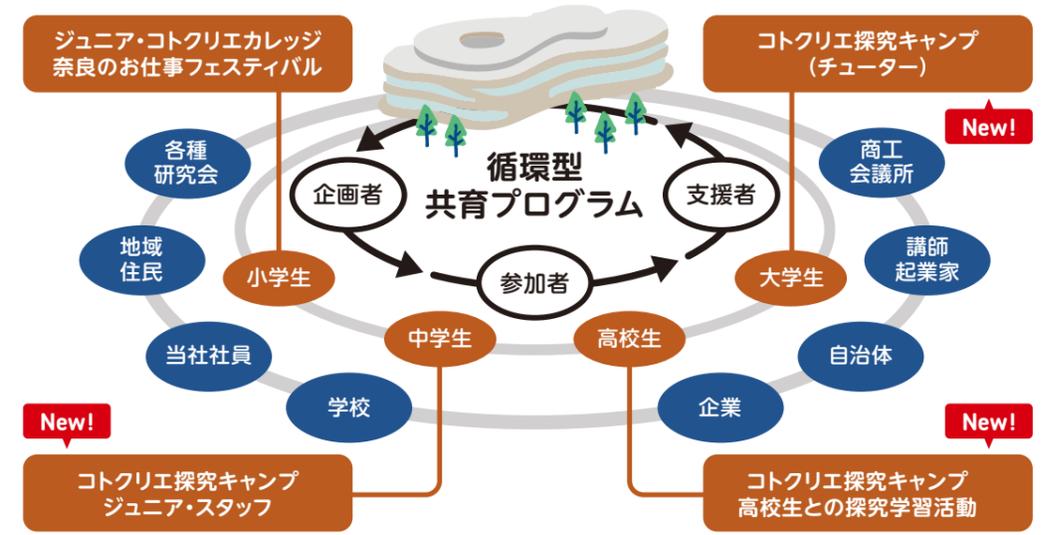
成果

- 中高生向け「コトクリエ探究キャンプ」開始。全世代が参加できる共育プログラムを実現(満足度9.4/10点)。
- 「ジュニア・コトクリエカレッジ」卒業生の半数がジュニア・スタッフ応募、延べ38名が活躍。
- 2自治体と協働し、地域密着型の学びを展開。

参加者の声

「まち」を良くすることに終わりはなく、それが素敵だと思った。(中2) / 市の繁栄の工夫に興味、プロの助言が参考に。(高2) / スタッフ体験で裏側を知り、見方が変化。(中1) / 家やみんなの考えを知れて良かった。(小5) / 習ったことを家に応用し、理解が深まった。(小4 保護者)

社会の創り手を育てる 「循環型共育プログラム」で未来のまちを支える



1 中高生向け公募プログラムスタート
「コトクリエ探究キャンプ」を開催。異年齢チームでまち歩きし、魅力的なまちの提案を自治体へ発表。

2 ジュニア・スタッフ誕生!
小学生向けプログラム卒業後には、運営側のジュニア・スタッフとして参加可能。成長と共に役割も循環。

3 自治体・住民・学校で広がる協働
中高生が地域課題をテーマに、自治体へ提案。社会の創り手を育みながら、循環型共育プログラムの輪を拡大。



受賞者コメント

この度は文部科学大臣賞という大変名誉ある賞を頂き、心より感謝申し上げます。本取り組みは、循環型共育の考えに共感しご支援くださった地域の皆様と、共に学び挑戦してくれたこどもたちの力によって実現したものです。地域とつながり、みらいを共に描く中で、さらなるまちの発展への可能性を強く感じています。今回の受賞を励みに、こどもたちが自らの力を信じ、地域の中で輝ける機会を広げてまいります。





秋田魁新報

株式会社 秋田魁新報社 秋田活性化 中学生選手権

<https://adv.sakigake.jp/kassei/>



事業概要 秋田県内の中学生が地元企業を訪問して業務内容や理念を学び、それを生かした地元活性化のアイデアをプレゼン発表するコンテスト。学校対抗形式で県内21校が参加。中学生は秋田で働くことや地元を活性化させることへの関心を深めた。

- 所在地** 秋田県
- 活動場所** 秋田県内21の中学校、県内21の協賛企業、県内3箇所のプレゼン大会会場
- 対象者** 秋田県内の中学生
- 実施日程** 企業訪問：令和6年7～8月、地区大会：9月28日、10月12日、10月19日、全県大会：11月7日
- 参加者** 全県21校の中学生95名 (+教員+訪問企業+プレゼン大会一般来場客を含め延べ約400名)

成果

中学生が地元企業との交流を通して、働く意義や郷土への理解を深め、地域産業の魅力を再発見する機会となった。また、企業との関わりにより世代間のつながりが生まれ、青少年の成長と地域の持続的発展の双方に寄与した。

参加者の声

プレゼン後の中学生からは「地域の課題や魅力に気付くことができた。今まで以上に地元を大切にしたい。」など、訪問企業からは「中学生の発想が素晴らしい。心に響いた。」など好意的な声が多数寄せられた。



キャリア教育・地域活性化



新聞社が中学生と地元企業をつなぎ、企業訪問からプレゼン発表までをサポート。取材記事でその一連の取組を情報発信し、地域と学校を結ぶ包括的な学びの機会を創出。



訪問企業の特徴を生かした地域活性化策をチームで検討。

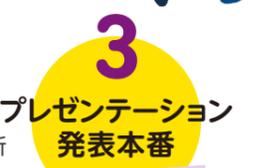
活性化できる！



先生の指導、訪問企業からの助言を受けながら、地域活性化策のアイデアを練り、プレゼン資料・台本などを作成。



地区大会：県内3カ所



訪問企業の代表者1名は審査員としてプレゼン大会に参加。

受賞者コメント

本事業を文部科学大臣賞に選出いただき、心より感謝申し上げます。地域に根差したキャリア教育を通じて、中学生が地元企業や地域と向き合い、未来について自ら考え伝える機会を、長年にわたり創出してきました。本賞は秋田の子どもたちの挑戦と、それを支える地域の大人たちの歩みが評価された結果であり、地方紙として大きな励みとなりました。今後も新聞社としての発信力を生かし、子どもたちの学びと成長、ならびに秋田の未来を支えてまいります。



アマゾンジャパン合同会社 中高生のための Kindle 電子書籍出版 ワークショップ

事業概要

中高生を対象に、AI ツールと Kindle ダイレクト・パブリッシング (KDP) を活用した電子書籍出版ワークショップを全国の学校で展開。創作と出版の体験の場を通じてアマゾンの最新技術に触れながら次世代の読書文化を育むプログラムです。

所在地

東京都

活動場所

全国の高等学校・中学校
またはアマゾンジャパン

対象者

高校生・中学生

実施日程

通年 (平成29年より実施)

参加者

120人 ※出版体験した生徒数

<https://www.aboutamazon.jp/news/community-engagement>



成果

- ワークショップの満足度調査 100%
- 今後本を読みたいと答えた割合 100% 貢献
- 地理的制約を超えた教育機会の創出

参加者の声

- 私たちの部活での活動を本にできるなんて夢みたいだと思いました! (東北学院高生物部)
- 自分の原稿を世界中の人々に読んでいただく経験ができました (不二聖心女子学院)



セイコーグループ株式会社 時を学び 未来をつくる ～セイコー次世代育成活動「時育®(ときいく)」～

事業概要

「正確な時」を手に入れるための人類の挑戦を学び体験する「時計教室」をはじめ、本物のスポーツ計測機材を使う「スポーツ教室」、森の中で生物多様性について学ぶ「環境教室」、時の芸術と言われる音楽の楽しみ方を学ぶ「音楽教室」、など時に関わる4つの分野で「時の大切さ」を学び、夢に向かって自立心を持って歩み続ける人材を育成します。

所在地

東京都

活動場所

全国の小学校、スポーツ施設
コンサートホール等

対象者

小学生・中学生
※ Summer Jazz Campのみ16～25歳

実施日程

令和6年4月～令和7年3月

参加者

4,505名

<https://www.seiko.co.jp/csr/toki-iku/>



成果

1. 体験者満足度：子ども 98% / 教員 100%
2. 体験者数の拡大：2020年度：210人 / 2021年度：1,008人 / 2022年度：2,511人 (直近5年間) 2023年度：3,440人 / 2024年度：4,505人 / 累計 12,794人 (25.3 末)

参加者の声

もっと時間を大切にしたいと思った。(小学4年生) / 時計の歴史が面白かった。もっと知りたい(小学5年生) / ほんものに触れる体験はやっぱりすごい。ほんもの体験で好奇心やわくわくがますます広がっていくのを感じた。(教員)



DENSO

株式会社デンソー デンソー サイエンススクール

<https://events.denso.com/dev-anniversary/thanks/society/science-school>



事業概要

「子どもたちにもっと理科の楽しさを知ってもらいたい」「将来を担う理系人材を育てたい」そんな思いから、社員やOBが講師となって小学校を訪問し、当社の得意分野である「電磁石とモーター」をテーマに、体験型の理科授業支援を行っています。

- 所在地** 愛知県刈谷市
- 活動場所** 小学校
- 対象者** 小学5年生
- 実施日程** 令和6年10月～令和7年2月
- 参加者** 8,810人

成果

- 2008年より今年で17年目
- 初年度愛知県 1,132名から全国1道7県 8,810名へ約8倍に拡大
- 累計受講者数 90,258名
- 教員アンケート結果 満足度 平均 4.9 (5段階)

参加者の声

- 《教員の声》** 子どもたちの知りたい、学びたいという気持ちを大切にしたい授業で全員が前のめりになって授業に取り組む姿が見られ、大満足でした。
- 《児童の声》** 楽しいモーターの授業ありがとうございました。電磁石の勉強は難しくて好きではなかったけど、実際に実験して楽しさが伝わりました。これからも理科の勉強を頑張ります！



PERSOL

パーソルホールディングス株式会社 小・中学校向けキャリア教育 講師派遣授業 “はたらく”を考える ワークショップ

<https://www.persol-group.co.jp/special/career-workshop/>



事業概要

全国の小学校・中学校に無償で提供。パーソルグループの社員が講師を務め、主体的に判断しキャリアを形成するために必要な「生きる力」と「人生100年時代の社会人基礎力」に必要な資質・要素を育む出前授業。現在、複数のプログラムを学校のニーズに合わせて、組み合わせて実施。

- 所在地** 東京都
- 活動場所** 全国小・中学校
- 対象者** 小学生4年生～中学3年生
- 実施日程** 通年(2017年より実施)
- 参加者** のべ61,764人(2025年9月時点)

成果

- 24年度は23年度対比で、学校数は124%、WS数は134%と学校現場の支持を得ながら増加
- 事前・事後アンケートで取得している、「主体性」「思考力」「協働性」のいずれも10～15%の向上が見られる

参加者の声

この授業を受けるまで、社会や仕事を詳しく知らなくて深く考えもしなかったけど、おかげで深くすることが出来ました。インタビューの中で「相手と過去は変えられない」けど、「未来は変えられる」ということがとても印象に残っています。このメッセージを大事にして将来に活かしたいです。



三菱UFJモルガン・スタンレー証券 教育と探求社
EDUCA & QUEST



三菱UFJモルガン・スタンレー証券 教育と探求社 探究型金融経済教育プログラム 「お金の力」

<https://manebiya.mufg.jp/programs>



事業概要

探究型金融経済教育プログラム「VALUE」「WILL」「CHOICE」の開発と、学校への無償提供を実施。子どもたちの人生や価値観を中心に、お金や経済について主体的な判断ができるよう、実践的な学びの機会を創出できる設計。

- 所在地** 東京都
- 活動場所** 日本全国の小中高校
- 対象者** 小学生～高校生
- 実施日程** 令和5年4月1日
令和7年3月31日(現在も進行中)
- 参加者** 令和5年度:3,177人/令和6年度:9,681人

成果

- 2024年度は、全国26都府県の102校の学校教員が本プログラムを実施し、9,681人の児童・生徒が受講。

参加者の声

- お金と社会のつながりについて考えるきっかけになった(生徒)
- 総合的な探究の時間だけでなく、進路指導やキャリア教育ともシームレスに連携できる(教員)



明治安田



明治安田生命保険相互会社 明治安田の 金融・保険教育

<https://www.meijiyasuda.co.jp/profile/society/financial-education.html>



事業概要

人生100年時代を見据え、小学生～高校生の金融リテラシーの向上を目的にオリジナル教材などを通じて、金融・保険の知識や自助の大切さを楽しく学べる出張授業を、全社・全役職員をあげて積極的に展開。

- 所在地** 東京都
- 活動場所** 全国の学校など/教育機関等
- 対象者** 小学生～高校生
- 実施日程** 通年(2020年度から実施)
- 参加者** 24,365人(4月～9月実績)

成果

- 金融リテラシーの向上
- 健全な消費行動の促進
- 5年間で累計4,875回開催
- 資産形成の意識醸成
- 教育格差の是正への貢献

参加者の声

- 生命保険は難しいイメージだったがハードルが下がった
- しっかり保険について学び貯蓄と保険をバランスよく利用していきたい(高校生)
- 将来のキャリア選択の差は、「体験」の差のため、学校ではあまり触れられない分野の話は大変ありがたい(校長)



ICC キッズ・プログラム 2024 キミ(),コード(),セカイ()
新宿区立角筈図書館との共催によるギャラリーツアー



ICC キッズ・プログラム 2024 キミ(),コード(),セカイ()
本年在学デザイン(スリットスクランの機組) 2021年
撮影:木楽美三



NTT 東日本株式会社 ICC キッズ・プログラム 2024 「キミ().コード().セカイ()」

事業概要

最新のメディア・アートに触れることで子どもたちの好奇心と想像力を育むことを目的に、毎夏開催する展覧会。2024年度は、メディア・アート作品をプログラミング的な要素(規則性、ランダム性、自律性、数学)からとらえ、感覚的にだけでなく、論理的思考にもつながる「モノゴト」のとらえ方で作品を鑑賞・体験できる場を創りました。

- 所在地** 東京都
- 活動場所** NTT インターコミュニケーション・センター [ICC]
- 対象者** 小学生・中学生
- 実施日程** 令和6年7月23日～8月25日
- 参加者** 計4,804人

<https://www.ntticc.or.jp/ja/exhibitions/2024/icc-kids-program-2024-you-code-world/>



- 成果**
 - 直接触れたり、自ら実践する機会を数多く、また無料で入場できる環境は、子どもに限らず親にとっても貴重な経験との評価。
 - 本展のために制作された複数の作品が国内外で賞を受賞し、アート/デザイン分野からも評価を獲得。
- 参加者の声**
 - 初訪問であったが、無料かつクオリティの高い作品があり、また来年も参加したい。
 - 時流に沿ったテーマ設定がなされ、複数回来場しても毎回新たな発見があり、子どもとの思い出作りの場となる。



アースサポート株式会社 ごみの分別とリサイクルを 「見る・考える・体験する」 子どもたちへの環境教育

事業概要 小学生がごみの分別やリサイクル、ごみ収集車の仕組みを楽しく体験することで学びに繋がり、リサイクルの大切さを理解する環境教育授業を実施しています。

- 所在地** 島根県
- 活動場所** 小学校
- 対象者** 小学4年生
- 実施日程** ①令和6年6月7日 ②令和6年6月26日 ③令和6年9月10日
- 参加者** 96人

<https://www.earth-support.jp/corp/sdgs/area/>



- 成果**
 - 25年間継続し約8,000名の児童に授業を提供。
 - 児童が学んだ分別を家庭でも実践することで、地域の環境意識向上に貢献。

参加者の声 どうしたらごみを少なく、資源として生かせるか、クイズもあり楽しく学べた。(4年担任先生) / ごみがリサイクルされていることを初めて知った。家でも分別をやりたい。(4年生児童)



株式会社 biima

biima sports

～「運動機会の減少」と「体験格差」を打破。
社会を巻き込む「共創戦略」ですべての子どもに運動機会を～

<https://biima.co.jp/>



事業概要

広瀬統一教授・前橋明教授（早稲田大学）と総合スポーツ教育プログラム共同開発。子どもの運動機会減少と体験格差の課題を解決するため、全国400教室に加えて、企業や自治体、プロスポーツチームとの「共創戦略」により、無料のスポーツイベントも全国で多数開催し、すべての子どもに運動機会を届けています。

- 所在地** 東京都
- 活動場所** 全国の公園、商業施設、幼保園、学校、学童などの地域施設
- 対象者** 0歳～12歳
- 実施日程** 令和6年4月～令和7年3月 現在も進行中
- 参加者** 延べ2,300人

成果

- 実施回数：通算195回（2023年度より実施）
- 協業：全国80以上の企業や団体

参加者の声

- イベント後、学校の体育の授業で今までかけこで勝てなかったお友達に勝てたよと子どもが嬉しそうに話してくれました。（8歳 保護者）
- 親としても遊びや、スポーツを教える際の参考になりそうだと思います。（年長 保護者）
- 1週間以上経過した今も、日常の中でふと思い出しては新しいことを教えてくれます。（小1 保護者）



スペシャルニーズ賞



アンドナ (株式会社 andna)

出張ボッチャ

～障がい者と子どもたちが共に楽しむ
多様性体験～

<https://andna.co.jp/>



事業概要

重度障がいのあるプロボッチャ選手を小学校へ派遣。子どもたちと一緒に楽しむ体験型プログラム。誰もが参加できるスポーツ「ボッチャ」を通して、「違いを共に楽しむ」体験を届けています。

- 所在地** 大阪府
- 活動場所** 小学校の授業 / 企業CSR研修地域のイベント
- 対象者** 小学生～大人
- 実施日程** 2024年8月準備開始～現在
- 参加者** 約80人

成果

- 実績：企業4件（うち1件は親子参加型イベント）
- 2025年の予定：小学校1件、生涯学習センター親子イベント1件が確定

参加者の声

参加企業の声：障がい者と触れ合う機会は少ないため、良い学び・気づきの機会に。これまで以上に、健常者と障がい者が自然に交流・共生できるようになればと思います。



連携賞



武田薬品工業株式会社 「学びの畑」を通じた 持続可能な 理科教育環境の構築

事業概要 京都市教育委員会との連携協定を締結し、所管施設内に開設した屋外園「学びの畑」において、校外学習用教材の生産、環境教育の実施、教員向け理科学研究を行い、子どもたちの科学リテラシー向上を目指す。

所在地 大阪府
活動場所 京都市青少年科学センター
対象者 小学生・中学生・小学校教員
実施日程 令和6年4月～令和7年3月
参加者 のべ4,300人

成果

- ① 約4,200人の児童・生徒に教材として薬用植物を提供。
 - ② 市内36校の理科教員に研修を実施。
 - ③ 3回の連続プログラムを実施。
- ①-③の取組を通じて理科学習の充実化に寄与。

参加者の声

- シソ科の植物は生き残るため（虫の食害などから身を守るため）に香りを出していることが体験を通じて新たに分かった。
- 座学と実習の両方があり、分かりやすかった。
- リサイクルについて興味を持った。



<https://www.takeda.com/jp/about/local-locations/botanical-garden/>



奨励賞



accenture

<https://www.accenture.com/jp-ja/about/corporate-citizenship>



アクセントゥア株式会社 STEAM Journey ～学びの連鎖で社会を変える～

小学生～大学院生を対象に、発達段階に応じたSTEAM教育を展開。探究・体験型・課題解決型学習を通じて「人の創意工夫×テクノロジー活用力」を育むことを目的とする。

- 対象者** 小学生・中学生・高校生・大学生・大学院生
- 実施日程** 令和6年4月～令和7年3月
- 参加者** 61か所 5,414名



Eat Well, Live Well.
Aji
AJINOMOTO

【出前授業】 <https://www.ajinomoto.co.jp/kfb/demaiejugyo/index.html>



【社会科見学】 <https://www.ajinomoto.co.jp/kfb/kengaku/kawasaki/tour-socialstudies.html>



味の素株式会社 すべての子どもたちに体験学習の機会を ～味の素(株)の出前授業・社会科見学～

味の素(株)は小学校向けの出前授業・社会科見学を通して、食育・SDGs学習を支援。特別支援学校や聾学校の受入れも積極的に行い、すべての子どもたちの知的好奇心を引き出す体験機会を提供し社会に貢献している。

- 対象者** 小学生
- 実施日程** 令和6年4月～令和7年3月
- 参加者** 令和6年度：434校 31,133人
うち特別支援学校・聾学校7校 77人



SHIONOGI

<https://www.shionogi.com/jp/ja/sustainability/society/social-contribution-activities/education.html>



塩野義製薬株式会社 多様な学びプログラム

学校教育に馴染めない、登校が難しいなど、様々な理由により学びの機会が制限されている子ども達に多様な学びの場を提供し、世界を広げ、新しい自分を知るきっかけを作る「体験型学びプログラム」です。

- 対象者** 小学3年生～高校3年生
- 実施日程** 令和6年5月～12月
- 参加者** のべ276人





積水メディカル株式会社

<https://www.sekisui-medical.jp/company/story/article006.html>



積水メディカル株式会社 積水メディカル理科教室

小児病棟にて長期入院、療養中のお子さんやごきょうだい児に向けて、健康に関する実験や、積水メディカルの製品（感染症検査キット等）を用いた実験を通じて、どきどき・ワクワクをお届けする活動です。

- 対象者** 神奈川県立こども医療センターにて長期入院、療養中のお子さんごきょうだい
- 実施日程** 令和6年6月～8月
- 参加者** 23人（令和6年度実績）



株式会社日立システムズ

https://www.hitachi-systems.com/sustainability/social_report/action/education.html



株式会社日立システムズ STEAM教育プログラム 「未来をもっと輝かそう」

当社独自の次世代IT人材育成のSTEAM教育プログラムです。当社の技術者が講師を務め、小中高生にITの仕事のおもしろさや、AIや数学がビジネスでどう役立つのかななどの学びを提供しています。

- 対象者** 小学生・中学生・高校生
- 実施日程** ◆プログラミング授業 7～8月
◆AI授業、ITで解決、データサイエンス授業 通年
- 参加者** 令和6年度：1,623人 / 累計：15,033人



SOMPO

<https://www.sompo-japan.co.jp/csr/environment/eco/bousai/>



損害保険ジャパン株式会社 防災ジャパンドプロジェクト

保険会社としての使命に基づき、東日本大震災経験社員の想いから誕生。子どもたちとその保護者を対象に、自助・共助の形成を目的とした体験型ワークショップを全国で展開。

- 対象者** 子どもとその保護者
- 実施日程** 通年
- 参加者** のべ126,000人
2025年3月末累計



今日を愛する。
LION

<https://www.lion.co.jp/ja/sustainability/inclusiveoralcare/okuchikarada/>



ライオン株式会社 おくちからだプロジェクト

子ども達へオーラルヘルスケア機会を届けるべく、独自開発した「歯と口の健康」をテーマとした体験プログラムを全国のこども食堂等の場を通じて提供し、子どもたちの「オーラルヘルスケア習慣づくり」と「自己肯定感向上」を目指しています。

- 対象者** ①小学生 ②3-6歳未就学児 親子
- 実施日程** 令和6年4月～令和7年3月
- 参加者** ①期間計24,000人（累計132,040人） ②48組



PASONA

<https://www.pasonagroup.co.jp/>



株式会社パナソニックグループ パナソニックグループ「オンライン遠足」

病気や障害など外出のできない子どもたちとパナソニックグループの運営する施設（①淡路島のテーマパーク / ②大阪・関西万博パビリオン）をオンラインで繋ぎ、子どもたちへ「遠足」の機会を提供する。

- 対象者** 未就学児～小学生・中学生
- 実施日程** 2022年～定期的に開催
- 参加者** 延べ3,600名



秋田新報

<https://dakara-daijoubu.sakigake.jp/>



株式会社秋田魁新報社 「だから大丈夫～子どもを守るプロジェクト」

タッグを組んだのは、日本を代表するラッパーの般若さんと、SHINGO★西成さん。二人は、苦しさや生きづらさを抱える県内の子どもたちや支援者と交流し、生きることを共に考え、語り合いました。交流の場となったのは、中学校での特別授業、フリースクール主催者や不登校経験者との対談、特別ライブなどです。

- 対象者** 悩める10代とその親
- 実施日程** 令和6年2月2日～10月16日
- 参加者** のべ約550人





<https://kayama-k.co.jp/>



加山興業株式会社

教科書を飛び出した！ KAYAMAの体験型「環境授業」

分別ゲームやパッカー車体験などを通して、子どもたちが環境を自分ごととして考え、行動変容へとつなげる学びを提供しています。楽しく学びながら、家庭・地域へと環境意識を広げる取り組みです。

- 対象者 小学4年生
- 実施日程 令和6年4月～令和7年3月
- 参加者 のべ1,137人 ★2012年からの累計：のべ8,395人



<https://jp.ch.com/flights/intro-sub-company/>



スプリング・ジャパン株式会社

芝山町インターナショナルジュニアカレッジ ～航空業界で活躍する人材の植樹～

客室乗務員が講師となり、千葉県芝山町の子ども達にテーマに即した英語学習とその実践学習を行う航空キャリア教育事業。

- 対象者 幼児から中学3年生
- 実施日程 令和6年7月15日
令和6年10月27日
令和7年2月8日
- 参加者 第1回32名 / 第2回25名 / 第3回27名 / 合計84名



<https://ohanashitai.kodansha.co.jp/>

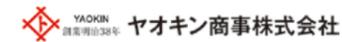


株式会社 講談社

「本」とあそぼう 全国訪問おはなし隊

550冊の絵本を積んだキャラバンカーで全国を巡る。

- 対象者 小学生・幼稚園生など
- 実施日程 令和6年4月～令和7年3月
- 参加者 12,993名



https://yaokinsyouji.com/business/designated_manager2



株式会社 ETOE / 株式会社 享屋 / 株式会社 建設技術研究所
芝園開発株式会社 / 高宮産業株式会社 / 田辺薬局株式会社
株式会社 WSense / ナガイビジネスソリューションズ株式会社
株式会社 立命 / 株式会社 ロボットスポーツリーグ
株式会社 ワイ・プランニング / ヤオキン商事株式会社

地域連携型校内職場体験 おしごとらんど

1校につき約15職種企業等が学校に集まり、講話や体験を通じてそれぞれの職業を紹介する。既存の職場体験が抱えてきた課題を解決し、子ども達の将来の選択肢を広げることをめざす。

- 対象者 中学2年生
- 実施日程 令和6年7月～令和7年1月
- 参加者 令和6年度 計838名



<https://www.jrcs.co.jp/>



JRCS株式会社

JRCS 海運教育 「もし日本から船が消えたらどうなるの？」

海外から届く生活必需品を題材に、国際海運都市・下関の港の役割を交えながら、海上物流の大切さを小学生に伝える出前授業です。船の仕事を目撃することで、未来の海運を支える意識を育みます。

- 対象者 小学校高学年
- 実施日程 令和6年10月～令和7年3月
- 参加者 のべ144人



広がる企業の体験活動



astellas https://ed.lne.st/project/healtheducation_pj/

アステラス製薬株式会社 健康の自分ごと化授業

中学・高校生向けに、健康を科学的・主体的に学べる授業を実施。健康を自分ごと化し、自分なりの健康や治療選択について理解を深めます。

- 対象者 中学生・高校生
- 参加者 36人

ISUZU <https://www.isuzu.co.jp/company/business.html>

いすゞ自動車株式会社 地域と育む「気づく力」 交通安全フェス／出前教室

子ども達や保護者が体験を通じて交通ルールを学ぶ啓発「フェス」を開催。自社運営のお子様向けサイトのコンテンツや自社制作の交通安全リーフレットの教材も活用して啓発を推進。

- 対象者 未就学児～小学校低学年
- 参加者 525人

Nidec <https://www.nidec.com/jp/sustainability/community/education/>

ニデック株式会社 「モーターと地球環境」 ～わたしたちができること～

次世代を担う子どもたちに「回るもの、動くもの」を通して理科・モノづくりの楽しさを知ってもらい、同時に地球環境への関心も深めてもらえるプログラムです。

- 対象者 小学生・中学生
- 参加者 約1,400人

NIPPON SANSO <https://www.tn-sanso.co.jp/jp/sustainability/socialissues/#sec02>

日本酸素株式会社 (2026年4月1日に大陽日酸株式会社から社名変更) 産業ガスの製造・販売

広報部、および社内ボランティアが小学校等に出向き、当社が製造する液体窒素を使った実験の体験を通して、化学の面白さを学ぶ。

- 対象者 小学5年生
- 参加者 約60人

株式会社グリーンズ <https://kk-greens.jp/materiality/person/>

株式会社グリーンズ グリーンズ人づくりプロジェクト ～学びの杜から広げよう～

特別支援学校にて接客サービスを学ぶ生徒に接客サービス技能講習と検定試験の社内講師派遣を実施しています。

- 対象者 特別支援学校高等部にて接客サービスを学ぶ生徒
- 参加者 20名(令和6年度)

CEC <https://atclaps.cec-ltd.co.jp/>

株式会社シーイーシー 「at Claps」 ～紙のおもちゃで育む、親子のふれあいと 社会のつながり～

企業や団体が無償提供する紙のおもちゃを通じて、親子が温かいふれあいを持ち、子どもたちにもものづくりの楽しさと他者への思いやりを育む機会を提供しております。

- 対象者 幼児～高校生
- 参加者 交流イベント参加者数:1,136人(家庭での利用者を除く)

NISSAY <https://www.nissay.co.jp/sustainability/contents/chiiki/shakaikoken/>

日本生命保険相互会社 ニッセイ森の探検隊

全国211箇所にある“ニッセイの森”を活用し、地域の小学生や親子を招待し、自然体験教室を実施。

- 対象者 小学生・活動地域在住の親子
- 参加者 約165名

TCS <https://www.tcs.com/jp-ja/who-we-are/corporate-social-responsibility/kids-drone-project>

日本タタ・コンサルタンシー・サービシズ株式会社 キッズドローンプロジェクト

STEAM人材育成と地域社会での教育機会充実を目指し、ドローンを活用した体験型プログラミング授業を提供。

- 対象者 小学3年生～6年生
- 参加者 857人

SEED <https://www.seed.co.jp/enjoy/education/>

株式会社シード コンタクトレンズって何だろう？ ～目の不思議について学ぼう～

コンタクトレンズや目について学ぶことで目の健康や近視予防、コンタクトレンズの正しい使用法の啓発を目的とした授業です。

- 対象者 小学生～高校生
- 参加者 のべ662人

DENSO https://www.denso.com/jp/ja/driven-base/project/honeybees_2/

株式会社デンソー みつばちプロジェクト

みつばちを通じて自然とふれあう体験型教室として、養蜂や採蜜、蜜蝋キャンドルづくりなどの実践教育を通じて、自然を守る大切さを体験から実感し、未来へつなぐ想いを広げます。企業・行政・学校が協力して学びの場を広げ、障がい者施設と連携した就労支援型の商品開発にも取り組み、地域とともに持続可能な社会づくりを進めています。

- 対象者 未就学児～大学生
- 参加者 1,194人

株式会社 阪急阪神百貨店 <https://www.hankyu-hanshin-dept.co.jp/sustainability.html>

株式会社 阪急阪神百貨店 HANKYU HANSHIN こどもカレッジ

阪急うめだ本店・阪神梅田本店の両本店を含めた全8店舗でこどもを中心としたファミリーを対象に“楽しく遊んで、学んで、体験する”をコンセプトに学びのエンターテインメントを提供。

- 対象者 地域のこどもを中心としたファミリー
- 参加者 夏休み期間参加者 30,980名 ※8店舗合計

FamilyMart <https://www.family.co.jp/sustainability/children/kodomo-syokudo.html?kw>

株式会社ファミリーマート ファミマこども食堂

店舗のイートインスペースなどを活用し、地域のおこさまとご家族と一緒に食事をしたり、コミュニケーションを図ったりすることで、地域交流を活性化する取り組みです。

- 対象者 未就学児から小学校6年生まで
- 参加者 2,274名

Nidec <https://www.nidec.com/jp/sustainability/community/education/>

ニデック株式会社 「京のエジソンプログラム」体験学習

将来の科学技術を支える人材の育成を目的に、京都府乙訓教育局と共同で開催。子どもたちの科学技術への興味・関心を高められるよう、実際にものづくりの現場に触れ、体験するオリジナルプログラムを企画。

- 対象者 乙訓管内小学校在籍の5,6年生
- 参加者 約40人

Nidec <https://www.nidec.com/jp/sustainability/community/education/>

ニデック株式会社 ニデックフェスタ

モノづくりや理科に興味を持ってもらうため、当社の技術や製品に関連する6つの体験を用意。モーターが身のまわりの「動くところ、回るところ」で数多く活躍していることが実感できる、触って体験できる展示も実施。

- 対象者 小学生
- 参加者 約290人

マイナビ https://www.mynavi.jp/news/2024/05/post_43415.html

株式会社マイナビ 中学生向けキャリア教育授業 「カードゲームで学ぶキャリア図鑑～未来を拓く仕事と社会！自分の可能性を探究しよう」

本プログラムでは、カードゲーム教材を用いた学習活動を通して、さまざまな業種・職種が存在することを理解し、仕事を通じた社会参加について学びます。これにより、勤労観の視野を広げ、職業調べなど今後のキャリア教育に主体的に取り組む姿勢の涵養を目指します。

- 対象者 中学生
- 参加者 生徒数:7,240名/協力社員:278名

mandom <https://www.mandom.co.jp/special/bukatsu-hair/>

株式会社マANDOM なりたい自分を諦めない共創プロジェクト MANDOM「どう思う？部活ヘア」

今も理不尽ルールを理由に部活を諦める、気持ちに蓋をする学生達に着目。髪型を起点に本質や自己実現を考えるワークやヘアセット体験を、学校や地域、団体、理美容師らと共創しています。

- 対象者 中学生・高校生 ※一部小学生向け実施もあり
- 参加者 のべ500名程度

広がる企業の体験活動



METAWATER <https://www.metawater.co.jp/>

メタウォーター株式会社 水はどこからくる？ 使った水はどこへ行く？

普段使っている水がどのようにして出来て、使った水はどうなるのか、座学と実験を通じて水循環について分かりやすく学べる出前授業を全国で実施しています。

- 対象者** 小学4年生を中心に、小学生～高齢者まで
- 参加者** のべ約 1,200人

MetLife <https://www.metlife.co.jp/content/dam/metlifecom/jp/corp/pdf/about/press/2025/251224.pdf>

メットライフ生命保険株式会社 お金ってなんだろう？楽しんで考える 『大切なお金の話』

子どもたちへの金融教育プログラムの提供。
(座学、買い物ゲームのロールプレイング)

- 対象者** 小学生
- 参加者** のべ 140人

kids★star <https://www.kidsstar.co.jp/expo>

株式会社キッズスター 「ごっこランド EXPO」

親子で楽しく社会を学ぶ！
実在企業のオリジナルワークショップ。

- 対象者** 3歳から小学生
- 参加者** のべ6万人

Recycle Plaza JP <https://www.suntory.co.jp/group/sbs/sustainability/recycle/#a-plaza>

株式会社ジャパンビバレッジエコロジー どこでも学べる！現場から伝える 缶・びん・ペットボトルリサイクル

工場のリサイクルの様子をライブ配信で届けるオンライン工場見学・授業を令和3年1月より開始しました。これまでの現地見学・授業にあわせオンラインでも行うことで、全国の小学生に学習の場を提供しています。

- 対象者** 小学生
- 参加者** のべオンライン 1,847人 / 現地 1,984人

IDEC <https://www.idec.com/ja/csr/topics/20250401>

IDEC 株式会社 地域と未来をつなぐ「いずみの森」体験 ～いきもの観察と環境学習～

地域の社会福祉協議会と連携し、支援が必要なご家庭の子どもたちを対象に、緑地が少ない都市の中で、企業緑地「いずみの森」を活用し自然体験イベントを開催。いきもの観察や環境学習を通じ、命の尊さと環境を守る心を育みました。

- 対象者** 支援が必要なご家庭の子ども達 (小学生)
- 参加者** 7人+保護者

J-POWER <https://www.jpowers.co.jp/ecoene/>

J-POWER (電源開発株式会社) エコ×エネ体験プロジェクト

- ① エコ×エネ体験ツアー-水力小学生親子編、水力・火力学生編
- ② 出前授業「エネルギー大臣になろう！」

- 対象者** ① 小学4～6年生の親子、
学生 (大学生や高専生 (4年以上) 等)
② 中学生・高校生・大学生
- 参加者** ① 178人 ② 414人

TSUKINOWA <https://www.tsukinowa.co.jp/>

株式会社瀬田月輪自動車教習所 「その投稿、大丈夫？」 SNS ネットリテラシー講習

SNS利用が低年齢化する中で、いじめ・誹謗中傷・炎上などのトラブルを未然に防ぐため、小・中・高校生を対象に、実例・動画・ワークショップを通じて安全で責任ある情報発信を学ぶ講習を実施。子どもたちが自ら考え、判断する力を育みます。

- 対象者** 小学生・中学生・高校生
- 参加者** のべ約 2,300人

Chutoku Group <https://www.chutoku-g.co.jp/csr/esd>

中特グループ 株式会社中特ホールディングス ダチョウによる食品リサイクルループの 仕組みと食品ロスについて

かねてより行っているダチョウによる食品リサイクルの紹介と、実際にリサイクル工場で飼育しているダチョウへ給餌する体験を通して、環境問題や食品ロス問題についての理解を深めるプログラムです。

- 対象者** 小学生以上
- 参加者** のべ 80名

NEC <https://www.nesic.co.jp/sustainability/social/contribute/education.html>

NECネットエスアイ株式会社 出前授業「南極くらぶ」

南極地域観測隊で活躍した社員が講師となり、南極の厳しい環境の中で共に生活する仲間との連携の大切さ、SDGs、地球環境、自然科学など南極から見たサステナブル (持続可能) な未来を考えるきっかけを作るプログラムです。

- 対象者** 小学生・中学生・高校生
- 参加者** 1,773人

THK <https://www.thk.com/jp/ja/>

THK 株式会社 ものづくりは未来づくりだ 「ものづくり0.」プロジェクト

中学生や高校生の「ものづくり」を応援することを目的としています。学校の授業等で探究できる教材や研究助成、動画コンテンツ等を通じて、一歩でも、半歩でも、たとえ 0.1 歩でもものづくりに踏み出す機会を提供します。

- 対象者** 中学生・高校生
- 参加者** 約 2,400人

NOAH <https://noah-indoorstage.com/>

ノアインドアステージ株式会社 こどものスポーツ体験格差解消へ！ 「できた」という成功体験で未来の健康創り

地域と連携し、こどものスポーツ体験格差解消へ取り組み、成功体験を積むことで、自己肯定感を高め将来の運動習慣につなげています。

- 対象者** 園児・小学生
- 参加者** 1,446人

MISHIMA PLAZA HOTEL <https://mishimaph.co.jp/>

みしまプラザホテル ウェディングパーティーを体験しよう

小学生と高校生が模擬披露宴やパティシエ体験を通して、披露宴の過程や意義、仕事における協働の大切さ、そして人を喜ばせる「喜び」を学ぶプログラムです。

- 対象者** 小学生・高校生
- 参加者** 保護者を含めて 100名

iiimpact <https://www.impactinternational.com/jp/action-sdgs/leadership-eco-system>

インパクトジャパン 株式会社 「イマ」と「ミライ」の人材育成をつなぐ： リーダーシップ・エコシステム

意欲はあるが、機会に恵まれない不利な立場に置かれている若者に対し、生き抜く力の源泉のひとつ「リーダーシップ」能力開発機会を提供するもの。また彼らを支援する NPO 等団体に売上総利益 1% を寄付しています。

- 対象者** ・プロボノ：大学奨学生、支援団体職員
・寄付：小学生・中学生・高校生・大学生 (団体支援対象)
- 参加者** 今年度のべ 29人 (活動開始以降参加者のべ 236人)

KAYAMA <https://kayama-k.co.jp/>

加山興業株式会社 学生の“やってみたい”をカタチに！ SDGs 探究型インターンシップ

高校生が地域の企業で実際の業務や課題に挑戦し、SDGs や地域課題を自分ごととして探究する体験型インターンシップです。主体性・協働性・課題解決力を伸ばす学びを提供します。

- 対象者** 高校 1-3 年生
- 参加者** のべ 54人

ひびのパン <https://hibinopan.jp/csr/>

株式会社ミンナ 出張パン教室

「簡単なパン作り」体験を提供。製パンの全工程を体験することで食品への理解を深め、手作りすることによって生まれる家族との豊かなコミュニケーションの機会を創出。

- 対象者** 未就園児・未就学児・小学生・中学生・高校生
- 参加者** 8,459人

DAC <https://miraisupport.or.jp/>

株式会社 DAC ホールディングス 自然とふれあい、夢を育もう！ 未来の種をまこう！農業体験

このプログラムは単なる収穫体験でとどまりません。ゼロ (土づくり) から、種蒔き、収穫、調理し味わう (収穫祭) まで、全 5 回の工程に児童養護施設の子供達が主体的に携わる総合的なプログラムで自己肯定感と社会性を育みます。

- 対象者** 幼児・小学生・中学生 / 5 歳～15 歳
- 参加者** 10人

千葉大学名誉教授 明石 要一 氏

地域活性化・地域づくりの活動が脚光を浴びる

文部科学省が「青少年の体験活動推進企業表彰」を行ってきて13年になる。よく続いている。このこと自体がうれしい。今回も多くの企業がエントリーしてくれた。応募件数は63件、その中で大企業が40件、中小企業が23件である。

書類審査を経て令和7年11月に、最終審査に進出する11件と特別賞2件、奨励賞14件を決定した。そして、1月20日に国立オリンピック記念青少年総合センターでプレゼンを行った。審査員との質疑を経て、最終的に決定した。

文部科学大臣賞は、大企業部門では大和ハウス工業株式会社の「みらいを創る力をはぐくむ大和ハウスのコトクリエ社会共育プロジェクト」、中小企業では新聞社の株式会社秋田魁新報社の「秋田活性化中学生選手権」が選ばれた。

大和ハウス工業は、地域が消えつつある時代にどうすれば地域が活性化するか中高生が中心となって自治体にプランを提案する活動である。小学生も参加しているが、その中から中学生になってからジュニアスタッフと参加するようになっている。人材育成の循環型のプログラムにもなっている。まさに青少年が中心となった街づくりの活動を行っている。

秋田魁新報社は、中学生が地域を知り、地域を好きになり、地域をよくする具体的な活動である。新聞社が、地域に根差した企業を中学生の職場体験として紹介する。中学生は単なる職場体験に終わらず、企業がどうすれば秋田という地域に貢献できるか、提案する。新聞社は紙面を通して企業と中学生をマッチングしている。また、秋田を3ブロックに分け各地で中学生がプレゼンを行い選抜していく仕組みを設けている。

書類選考とプレゼンという二つのハードルを設けている。プレゼンで書類の中では見えてこなかった活動がはっきりする、ことがある。応募される時、書類選考とプレゼンによる選考の二段階があることを想定すると、活動の様子が一層浮かび上がってくる。

青少年の体験活動が低下している。小中学校が行う自然体験活動は一泊二日と二泊三日が半々となっている。三泊四日、四泊五日の体験は少なくなっている。そして、平成14年は体験ができる施設のピークであった。施設の確保も大変になっている。その中で、企業の皆さんが青少年に様々な体験活動を提供していることに感謝する。これからも、多くの企業が参加されることを期待する。

国立青少年教育振興機構 理事 圓入 由美 氏

体験が育む、地域・社会・世界につながり未来を切り拓く力

令和7年度「いーたいけんアワード（青少年の体験活動推進企業表彰）」を受賞された皆様に心よりお祝い申し上げます。また、エントリーして下さった企業の皆様に、日頃から沢山の子供たちの体験活動を支えてくださっていることに感謝申し上げます。

文部科学大臣賞を受賞された大和ハウス工業株式会社の「コトクリエ社会共育プロジェクト」では、地域の多くの方との対話から交流を通じて、子供たちが地域を意識した社会の創り手となる循環型共育システムをつくりあげた取組として感銘いたしました。

また、株式会社秋田魁新報社「秋田活性化中学生選手権」では、同社の社員の方をはじめ地元の人々から支えられた子供たちのアイデアが商品化され、メディアを媒介として地域活性化にもつながる素晴らしい取組です。両事業とも体験活動を核とした地域創生の循環型人材育成として今後のモデルとなっていたと感じました。

「いーたいけんアワード（青少年の体験活動推進企業表彰）」で注目させていただきたいのは、子供たちが「面白い!」「楽しい!」「もっと知りたい!」という視点と、体験を通じて社会や世界にもつながっていると感じていただけるかどうかという視点です。

株式会社デンソー「デンソーサイエンススクール」では、楽しい授業で理科が好きになる!というだけでなく、「学びが社会とつながっている」というメッセージが込められています。また、アマゾンジャパン合同会社「中高生のためのKindle電子書籍出版ワークショップ」では、中高生が創作・出版した作品が世界に出版され、実際に購入されたことで子供たちの「学びの旅が世界につながった」という実感をもたらすような取組であると感じました。

デジタル社会においては、本物との出会い、体験が一層重要になる中で、ご参加された皆様におかれましては、今後も次世代を担う子供たちが、地域・社会・世界とのつながりを感じながら未来を切り拓く力を育んでいただけるような体験機会をご提供いただければ幸いです。

株式会社三和製作所 代表取締役 小林 広樹 氏

子供たちが正しく成長する日本であれば

今回、「いーたいけんアワード」の審査を通じて、改めて強く感じたことがあります。それは、日本の未来を託す存在はやはり子供たちであり、その成長の方向性こそが、これからの日本社会の在り方を決めていくということです。

教育という言葉から、私たちはつい知識や技能の習得を思い浮かべます。もちろん、それらは生きていくうえで欠かせない力です。しかし同時に、その知識や技能を「何のために使うのか」「誰の役に立っているのか」を考える力、すなわち正しい教養を育むことが、これからの日本にはより一層求められていると感じました。その教養を育てるうえで、体験活動の持つ力は計り知れません。幼少の頃から、地域社会の中に身を置き、どんな人が暮らし、どこに困っている人がいるのかを自分の目で見て、肌で感じる。その積み重ねが、「社会は自分と無関係ではない」という感覚を子供たちの中に育まれていきます。今回、文部科学大臣賞を受賞された取り組みは、まさにその本質を体現していました。

大和ハウス工業株式会社の「コトクリエ社会共育プロジェクト」は、企業の施設や知見を活かしながら、子供たちが「まち」や「社会」を自分ごととして考える場をつくり出しています。単なる体験の提供にとどまらず、世代や立場を越えて学びが循環していく仕組みは、社会全体で子供を育てるという共育の姿を明確に示していました。

また、株式会社秋田魁新報社の「秋田活性化中学生選手権」は、地域に根ざす企業だからこそできる取り組みです。中学生が地元企業や地域課題と向き合い、自ら考え、発信する。そのプロセスを社会にひらき、地域全体で見守る姿勢は、子供たちに「自分たちの力で地域を良くしていける」という確かな手応えを与えていました。

両者に共通していたのは、知識や技能を競わせるのではなく、それらを誰かのため、地域のために使おうとする姿勢を自然に育てている点です。身に付けた力を、困っている人を助けるために使おうとする日本人を育てること。それこそが、これからの教育において最も大切な視点ではないでしょうか。

「いーたいけんアワード」は、こうした価値ある実践を社会に示し、広げていくための重要な取り組みです。今回の受賞を一過性のものに終わらせず、より多くの企業や地域が関わり合いながら、体験を通じた学びを次の世代へつないでいく。その流れを、これからも力強く後押ししていくべきだと感じています。

子供たちが正しく成長する日本であるために。未来を担う彼らに何を残すのかを、私たち大人一人ひとりが問い続けていく必要があると、今回の審査を通じて強く実感しました。

千葉商科大学客員教授、博士(政策研究) 笹谷 秀光 氏

ビヨンドSDGsとウェルビーイングでの体験活動の意義

SDGsの最終年である2030年が近づくなか、ビヨンドSDGs(ポストSDGs)の議論がよいよ本格化します。昨年には日本としてのVNR(自発的国家レビュー)が発表され、国連では2027年から国際的に新たな枠組みに向けた検討が始まります。まさに今、次の時代を見据えた準備が求められるなかで、体験活動はその中核的役割を担い得る存在です。

私の専門であるSDGsでは、特に目標4「質の高い教育」が本表彰制度と深く結びつきます。特にターゲット4.7に掲げられる「持続可能な開発のための教育(ESD)」は、体験を通じて価値観を形成するプロセスを重視しており、体験活動はこの教育理念を具現化する不可欠なアプローチです。社会課題に向き合い、実社会での学びを通じて自らの価値観を培うこうした実践は、青少年にとって将来の行動原理を形づくる基盤となります。

また、ビヨンドSDGsの時代においては、「人間の幸福」を軸に据えるウェルビーイングの概念が、社会全体の方向性を示す新たな基準になろうとしています。ウェルビーイングは、経済成長のみならず、心身の健やかさ、他者とのつながり、コミュニティの豊かさといった幅広い要素で構成される概念であり、体験活動はまさにこうした要素を総合的に育む場として機能します。体験活動は、青少年のウェルビーイングの向上に直結するものです。

また、企業にとっても、本業の強みを生かしながら体験活動の機会を提供することは、ビヨンドSDGs時代の価値創造そのものです。これまでのCSRやSDGsの実践を深めて、企業自身の人的資本を育み、組織文化を刷新し、持続可能な社会の担い手を育成する「未来への投資」としての意味合いもますます大きくなっています。

こうした背景のもと、私は本表彰制度には第2回から審査委員として携わっていますが、企業が青少年へ提供する体験の価値を正當に評価し、広く社会に共有する極めて重要なプラットフォームとますます充実してきました。

未来社会を見据え、自ら考え、行動し、協働し、より良い社会を創り出していく力をもつ若者を育む取り組みは、ビヨンドSDGsの議論が進む中で、国際的にも高い意義をもつ事例として注目されることでしょう。

今こそ、これまでの体験活動表彰事例の集積をビヨンドSDGsのいわば「自由演技」集として国際的にも発信していくべきです。本制度が、未来の担い手を育み、次の時代にふさわしいビジョンを示す活動を後押ししていくことを大いに期待しています。

最終プレゼンテーション審査の様子





これまでの文部科学大臣賞 受賞企業



平成 25 年度	-	株式会社リコー 市村自然塾
平成 26 年度	-	アサヒビール株式会社 日本の環境を守る若武者成塾
平成 27 年度	大企業部門	パナソニック株式会社 映像制作支援プログラムキッド・ウィットネス・ニュース (KWN)
	中小企業部門	株式会社金沢大地 コープ農園 大豆・味噌づくりコース
平成 28 年度	大企業部門	べんてる株式会社・キャンノンマーケティングジャパン株式会社 校舎の思い出プロジェクトを2社共同で実施
	中小企業部門	ワイズティーンネットワーク株式会社 宇都宮市立中央小学校の紅茶部をサポート
平成 29 年度	大企業部門	伊藤忠食品株式会社 商業高校フードグランプリで食に関わる人材の育成・食育
	中小企業部門	株式会社栄水化学 心を磨く習慣教育「エコピカはかせのおそうじ塾」 ～子ども達が明るく育ち、地域がHAPPYになれる環境づくり～
平成 30 年度	大企業部門	株式会社テレビ東京 “すべての子どもたちに届ける”「テレビ東京の校外学習」
	中小企業部門	株式会社長坂養蜂場 楽しく学んで、養蜂とミツバチの恵みへの理解を深める「夏休み子ども採蜜体験教室」
令和元年度	大企業部門	三井物産株式会社 三井物産「サス学」アカデミー
	中小企業部門	有限会社エコ・ライス新潟 温故知新! 昔ながらの手作業から人工衛星を活用の農業まで都会で体験!
令和2年度	大企業部門	阪急阪神ホールディングス株式会社 「阪急阪神 未来のゆめ・まちプロジェクト」小学生向けキャリア教育プログラム
	中小企業部門	フジコーポレーション株式会社 うわ～きっず
令和3年度	大企業部門	株式会社ファンケル 特別支援学校に向けた自立した社会人になるための「オンライン身だしなみセミナー」
	中小企業部門	石井造園株式会社 Discovery Yokohama ナラ枯れを探そう
令和4年度	大企業部門	日鉄エンジニアリング株式会社 情熱・先端 Mission-E (中学生向けのSTEAM教育プログラム)
	中小企業部門	有限会社人事・労務 次世代を担う子供たちのはたらく豊かさを よみがえれ! 浅草田圃プロジェクト
令和5年度	大企業部門	森ビル株式会社 ヒルズ街育プロジェクト
	中小企業部門	管清工業株式会社 楽しく学ぶ! 水のじゅんかん
令和6年度	大企業部門	ALSOK (総合警備保障株式会社) ALSOK あんしん教室®
	中小企業部門	株式会社三和製作所 ハートブリッジプロジェクト～想いの架け橋 / 子どもたちの「できた!」を応援～
令和7年度	大企業部門	大和ハウス工業株式会社 みらいを創る力を育む大和ハウスの「コトクリエ社会共育プロジェクト」
	中小企業部門	株式会社 秋田魁新報社 秋田活性化中学生選手権



ALSOK 株式会社 総務部サステナビリティ推進室 室長 干場 久仁雄 氏

「いーたいけんアワード」で進化する体験活動

昨年度、ALSOKは小学校向け防犯出前授業「あんしん教室」により、文部科学大臣賞を受賞させていただきました。改めて、関係者の皆様に心より御礼申し上げます。

そのご縁から、本年度はいーたいけんアワードの審査委員を務めさせていただきましたが、当社の取組は当時の学校の要請(小学校での事件が多発していました)に応じて始めた活動を全国展開したもので、他企業とはアプローチがやや異なるかもしれません。

よって、あくまで前回受賞企業の一担当として今回の審査を通じて感じたことをお伝えしたいと思います。

本年度の受賞企業の取組を拝見し、強く印象に残ったのは、企業が提供する体験活動そのものが大きく進化しているという点です。

昨年度、当社の取組をご評価いただいた際は、20年以上にわたる継続性や190万人に迫る全国の参加児童数といった規模が評価軸であったと受け止めています。

一方で、本年度文部科学大臣賞を受賞された2社の取組は、単発の体験

にとどまらないもので、企業による体験活動の新たな段階を示すものだと感じました。

大和ハウス工業様の取組は、地域の小中高生を対象に、自社施設を拠点に従来の子ども会やボーイスカウト/ガールスカウトのような組織を運営しており、「体験」の枠を超えた人材育成の実践だと感じました。

秋田魁新報社様の取組は、中学生が主体となって地元企業と共に地域活性化に向き合う点で「体験」の枠を超えており、大規模なコンテストへの参加を含めて、将来を考え始める世代に非常に意義深い機会を提供していると感じました。

企業が青少年と直接的かつ継続的に関わることは、費用やリスクを考慮すると決して容易なことではありません。実際、体験活動を教材やオンラインでの提供に留めるケースも散見されます。しかし、本年度の受賞企業はいずれも、青少年との直接的な体験を一過性に終わらせず、社会との接続を継続する仕組みとして提供していました。

「いーたいけんアワード」が始まって12年が経過したと伺っています。受賞企業が切磋琢磨する中で、企業による体験活動が着実に進化していることを、今回の審査を通じて実感しました。本表彰の継続と発展を通じて、企業が担う体験活動が今後さらに広がっていくことを期待しております。

慶応義塾大学 教授 野口 和行 氏

社会全体で育む「いーたいけん」の輪

令和7年度「いーたいけんアワード(青少年の体験活動推進企業表彰)」の審査を終え、子供の育ちを支えるための体験活動を担う一員として講評をさせていただきます。

大企業部門の大賞を受賞された大和ハウス工業株式会社、中小企業部門の大賞を受賞された株式会社秋田魁新報社をはじめ、最終審査に残られた各企業の皆様に心よりお祝いを申し上げます。また、今年度エントリーしてくださった数多くの企業の皆様に、深く感謝申し上げます。

審査にあたっては、「社会貢献の取組」「教育的配慮」「本業との関連性」「地域社会やステークホルダーとの関連性」「社内理解への配慮」「新規性・発展性」という多角的な観点から検討いたしました。最終プレゼンテーションはどれも熱意に溢れた素晴らしいものであり、審査委員の間でも、どの取組が子供たちの「生きる力」をより深く耕すのか、白熱した議論が交わされました。

大企業部門大賞の大和ハウス工業株式会社による「コトクリエ社会共育プロジェクト」は、「まち×探究×居場所空間」というコンセプトが非常に秀逸でした。自社施設を単なる見学場所ではなく、子供たちが「主体」となって社会と関わる

るサードプレイスへと昇華させた点は、これからの企業による体験活動の先進的なモデルです。中小企業部門大賞の株式会社秋田魁新報社の「秋田活性化中学生選手権」は、地方新聞社という公共性を活かし、地域の中学生が自ら歩き、企業の声を聞き、未来を構想する場を創出した点が高く評価されました。「地域を知り、人と出会う」という足腰の強い体験は、若者の地域愛と探究心を育む力強いエンジンとなっています。

惜しくも大賞を逃した取組の中にも、心打たれるものが多々ありました。精密な物作りと森の生物多様性を結びつけた「時」を学ぶ教室や、25年にわたりサイクルの現場から環境負荷の重みを伝える活動、また、AIや電子出版技術を駆使して地域の魅力を一冊の本にまとめるワークショップなど、いずれも企業の「本業の強み」が子供たちの好奇心を呼び覚ます触媒となっていました。さらに、金融や「はたらくこと」をカードゲームや対話を通じて身体的な実感に落とし込む工夫など、デジタル化が進む現代だからこそ、五感を使った「手触り感のある実体験」を重視する姿勢が随所に見られました。

社会が複雑化する中で、子供たちが正解のない問いに立ち向かうためには、五感を使った「本物」の体験が不可欠です。本アワードに応募されたすべての企業の皆様が、多大なリソースを割き、情熱を持って体験の場を提供し続けてくださっていることに、改めて敬意を表します。皆様の取組が、今後さらに豊かな感性を育む土壌となり、笑顔あふれる未来へ繋がることを期待しております。

特定非営利活動法人教育支援協会 理事 山本 瑞穂 氏

地域とつながり広がる連携の輪

今年の「いーたいけんアワード」は「地域×企業」というテーマが強く印象に残りました。

「みらいを創る力を育む大和ハウスの「コトクリエ社会共育プロジェクト」は「まち×探究×居場所空間」の学びのサードプレイスとして社会の創り手を育てる循環型共育プログラムで、地域と企業が繋がり共に成長できる素晴らしい取り組みでした。特に、継続的な学びの循環を生み出す仕組みが丁寧に設計されており、「自分がしてもらったことを今度は誰かにする側になりたい」という思いが育まれていました。自己の成長と共に、コミュニティの持続や発展に寄与する意識が芽生えていることは、これからの社会にとって非常に重要な価値だと感じました。

また「秋田活性化中学生選手権」は秋田県全域を巻き込み中学生が地元企業を訪問しプレゼンテーションを行うという、まさに「地域×企業」の象徴的な取り組みでした。各支部での予選会から県大会まであり、一連の活動を自社新聞に掲載することで、メディアとしての強みを最大限に生かし

ている点が高く評価されました。大会を主催するのみではなく、毎年参加中学校にあわせて地域の企業を探し、協力の交渉をしているという丁寧かつ地道なマッチングの努力には深い敬意を抱きました。

最終プレゼンテーション審査では各企業のプレゼンが大変すばらしく、審査は非常に悩ましいものでしたが、文部科学大臣賞を受賞された2団体においては、多様な連携と細部まで丁寧に作りこまれた巻き込み仕組みが抜群であり、地域に新たな価値を生み出す力を強く感じました。奨励賞の取り組みも熱意にあふれ、いずれも各企業の特徴が際立った「いーたいけん」であり、僅差での評価となっています。

結びとなりますが、文部科学大臣賞を受賞された大和ハウス工業株式会社、株式会社秋田魁新報社をはじめ特別賞、奨励賞を受賞された皆さまに、心よりお祝い申し上げます。これからも「いーたいけん」が地域と繋がり、多様な連携を生み出しながら大きな輪となって広がっていくことを期待しております。皆様のさらなるご発展とご活躍を心よりお祈り申し上げます。

温かいご講評
ありがとうございます!

